

文化の華を咲かせなむ 「合唱の長町」の神髄を

明日、10月6日(火)は、一学期最後の大きな行事となる合唱祭となります。長町中学校は、過去、諸先輩方が築いてきた大きな特色の一つとして「合唱」があります。過去、全日本合唱コンクールやKHK音楽コンクール、そしてアンサンブルコンテスト等で、全国大会や東北大会等に何度も出場。それだけではなく市内や地域でも数々のコンサートや慈善イベントにも参加しています。

本校の特色は、合唱部だけが伝統を引き継いでいるわけではなく、100人規模の「合唱団」を形成し、卒業式や入学式等の儀式で披露したり、コンクール等にも部員以外の生徒が多数参加したりしています。そして校内合唱コンクールは、合唱部や合唱団で活躍している生徒達だけではなく、その伝統を引き継ごうと全校の生徒が合唱に誇りを持って取り組んでいます。

着任式や区切りの式で歌う校歌は、斉唱ではなく「合唱」です。自分の歌うべきパートを理解し、自然と校歌合唱になるのも本校の大きな特色であり、誇りです。

しかし、今年度はコロナ禍で、7月の合唱コンクールを中止としました。公共交通機関で多くの生徒が移動すること、昼食を共にすること、人の密度が高くなる会場と空気の入れ換え等が十分できない事等で、リスクが高いという判断をさせていただきました。しかし、そのような中でも、なんとか通常のコンクールとは異なる形であっても、開催できる可能性を探っていました。幸い、この長町地区には、最大4000人収容可能であり、30分に1度の空気の入れ換えができる最新技術が整ったゼビオアリーナがあり、館内関係者の方々にご相談したところ、アリーナ借用を快諾していただき、現在も様々な配慮をさせていただいております。

本校教職員は、生徒や保護者の方々のリスクを避けるために、そして無事開催するために、総勢20名以上の教職員が下見と打合せ等を5回にわたり行ってきました。他の中学校の合唱コンクールも3校ほど視察させていただき、開催の参考にさせていただきました。

生徒達は、例年だと2週間前後ある合唱強化期間はありませんでした。朝練習も放課後練習も実施しておりません。例年、保護者の方々に参観していただいている体育館でのリハーサルも行っておりません。このリハーサルで生徒達は他の学級の歌声を聞き、気持ちを新たにして練習し、この日を境にクラスの様子も歌も劇的に変わっていく場面も多数ありました。しかし、今回は、この合唱祭に向けての練習は1度もありませんでした。時間割を組み替えて、音楽の時間だけで縦割り合同チーム練習を体育館で実施しましたが、当日は「ぶっつけ本番」という感じです。会場も異なります。整列の仕方も1度も行っていません。当日も練習する時間を設定できないのが現状です。

しかしながら、生徒達の合唱に取り組む姿勢はやはり素晴らしく、わずかな授業時間であっても、素晴らしい歌声に変わってきました。きっと彼らは、先日の体育祭のように、3年生が中心となり、素晴らしい歌声を響かせてくれると私は信じています。そしておそらく本校で「最初で最後の縦割り合唱祭」を、3年生が中心となり、2年生が1年生を導き、1年生は、彼らの背中を見ながら、すばらしき歌声が8回、館内に響き渡ると思います。失敗を恐れず真剣に行事に向き合い、「合唱の長町」の神髄をみせてくれることを心から期待しております。